



初めての栽培を応援

園芸入門

野菜編

猛暑に負けずにずーっと収穫できる

キュウリ

「ずーっととれるキュウリ」

作型図	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
寒地 / 寒冷地				●	●	●	●	●	●			
温暖地				●	●	●	●	●	●			
暖地			●	●	●	●	●	●	●	●		

● まきどき ● 収穫期 🌱 植え付け時期

※栽培方法・時期は目安です。適温でのタネまき、地域や条件に合わせた栽培をおすすめします。

おすすめアイテム

タネ

タネまき培養土

定植用培養土



収穫目安
長さ
21~22cm

キュウリ **ずーっととれる**
キュウリ

※タネ袋のデザインは変更することがあります。



スーパーミックスA®
(タネまき・育苗用土)



野菜三昧®

基礎情報

分類	ウリ科
用途	地植え / 鉢植え
日当たり	日なた
耐暑性	強

タネをまく前に 毎回確認! タネまき基本3チェック

☑ 気温をチェック

気温が高過ぎても低過ぎてもうまく発芽できません。天気予報などで気温を確認してからタネをまきましょう。特に春は日中暖かくても夜は冷えるので注意してください。

☑ 土の厚さをチェック

発芽するときに光を好むもの、嫌うもの、どちらでもいいものがあります。必ずチェックしてからまきましょう。

☑ 土が乾燥していないかチェック

タネまき後、発芽まではこまめに水やりしてください。発芽するまで乾燥は厳禁。ジョウロでの水やりでタネが流されそうな場合は霧吹きを使ってください。

手順 1 タネまき



ポリ鉢に直径3cm、深さ1cm程度の穴を開けます。



タネ2~3粒をお互いに離してまきます。



タネが隠れるように土をかぶせ、たっぷり水やりをします。

発芽適温は25~30℃です。直径9cmのポリ鉢に直径3cm、深さ1cmほどの穴を開け、タネ2~3粒をお互いに離してまきます。土をかけ、元の面と同じ高さになるようにした後、たっぷり水かけます。土はタネまきと小さな苗の栽培に適した「スーパーミックスA」がおすすめです。

手順 2 間引き



4~5日で発芽がそろいます。



芽が3本出てきたので2本に間引きます(間引き1回目)。



葉が隣同士触れ合うようになったら、ポリ鉢の間隔を空けます。



本葉1枚になるころに1本立ちにします(間引き2回目)。

4~5日で発芽がそろいます。子葉が出てきたら2本立ち、本葉1枚になるころに1本立ちに間引きます。定植までの育苗期間は30日前後で、本葉3~4枚の苗にします。

手順 3 定植



ポリ鉢から苗を取り出すときは、極力、根を切らないように注意します。



苗を植えるための穴を開けます。



土の表面が平らになるように植え付けます。定植後はたっぷり水をあげます。

苗が本葉3~4枚に育ったら定植します。横幅55cm程度のプランターであれば2株植え、直径35cm程度の丸いプランターであれば1株植えがおすすめです。土は初期肥料配合済みでそのまま使える「野菜三昧」がおすすめです。

手順 4 定植後の管理

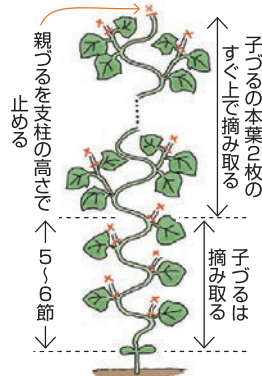
つるの伸びは非常に早いので、定植後すぐに支柱を立てましょう。定植時に支柱を設置してもいいです。小まめに支柱やネットに誘引します。5~6節までの子づるは摘み取り、それからは上の子づるは本葉2枚のすぐ上で摘み取ります。親づるの先端は支柱の高さで摘み取ります。

雨降りや多湿条件では、べと病、乾燥条件では、うどんこ病が発生しやすくなります。また、アブラムシはウイルス病を媒介するので要注意です。いずれの病害虫も発生したら薬剤による早期防除が肝要です。そのときは葉の裏にも薬剤がよくかかるようにしましょう。

● 整枝



親づるの先端を支柱の高さで摘み取ります。



手順 5 収穫

つるも果実もあっという間に大きくなるので、適期を逃さずに収穫してください。果実が21~22cmになったころが収穫の適期です。収穫が始まると土の肥料分も消費されるので、2週間に1回程度追肥を行います。

